

★★★★★

おまえぎの きらり輝く人



★★★★★



米寿を迎え作品展を開いた

石川 茂・松代

しげる まつよ

さん



PROFILE いしかわ・しげる/左 (88: 合戸)、いしかわ・まつよ/右 (88: 合戸) 教職を退いた後、農業に従事する傍ら、茂さんは水墨画教室、松代さんは編物教室、書道教室で学ぶ。5年前からは2人で表装教室に通う。

盛況だった作品展

「作品展の開催を通じて家族の絆も深まりました。やってみて本当に良かった」と感慨深げに話す茂さん。同居する二男夫婦と東京で暮らす長男、三男、そして5人の孫たちが総出で作品展の準備や片付けを手伝ってくれたのだ。

8月21日からの一週間、市立図書館アスパル2階展示場で夫妻の力作を紹介する「米寿夫婦作品展」が開催され、市内外から訪れた600人余りの来場者が、二人の心温まる作品の数々に触れた。

作品展は、大正12年生まれのお二人が共に88歳の米寿を迎えるにあたり、何か記念に残そうと一年前から考えていたもの。選りすぐった140点の作品が市立図書館の2階ギャラリーいっぱいに展示され、見る者の目を楽しませた。

趣味は芸術の域に

二人は共に元教師。茂さんは池新田高校や小笠農業高校（現・小笠高校）、松代さんは浜岡中学校で長年にわたり教

壇に立った。退職後、茂さんは農作業をする傍ら、趣味で水墨画を、松代さんは編み物や書道を始めた。8年前には、自宅敷地内に8坪ほどのアトリエ「遊うゆう庵」を造り、創作活動にも一段と熱が入るようになった。

アトリエの中は、買い揃えられた画材や毛糸などで溢れている。「これからもっと勉強して、いいものを作りたい。だから材料もいっぱい買ってあるんです。これを使い切るまでは作品を作り続けたい」。二人の創作意欲は全く衰えを知らない。

健康で仲睦まじく

二人に元気の秘訣を聞くと、茂さんは「生涯、自分の趣味を継続していくことが大事なんです。お互いの作品を批評しあうことも良い刺激になっています。何より目標をもって生きることが健康の源です」と力を込める。松代さんは「好きなことをやらせてもらえる環境があることに感謝しています。病気をしている暇もないですね」と笑顔で答えてくれた。